
黒と白

村瀬千理

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒と白

【Nコード】

N6061C

【作者名】

村瀬千理

【あらすじ】

久遠明希はそれまで人と変わらない、惰的な日常を送ってきた。だが一人の少女が明希の前に現れたとき、それまでの日常は崩れ去った。

序章 昔

ここである少年の話をしよう。

少年には少し変わった父親がいる。

父親は瞳の色が紅色かということ以外は普通の人間だ。

少年は父親が大好きだった。

無口で愛想のない男だったが、母や自分だけには優しくしてくれた。

父親は少年が小学校にあがったとき、ある事を教え始めた。

普段父親に従順な母親がそれには酷く反対し、何度も止めさせようとしたが、少年はそれを拒み続けた。

父の教えは厳しく、何度も泣いたこともあったが、全てやり終えた後、父親が頭を撫でてくれることが少年にはとても嬉しく、それだけで辛い教えにも耐えることが出来た。

母親には学業も疎かにしないということで納得させ、少年は教えを守り続けた。

充実した毎日だった。

少年にとって黄金期というに相応しい日常が続いていた。

だが、黄金期とはいずれ終わりを迎えるもの。

少年の幸せな日常も、少年が十歳を迎えた頃、儚くも崩れ去った。

1章 朝の天気はその日の気分を大きく変動させるものだ

ビヤビヤビヤビヤビヤビヤビヤ！

アパートの一室に、けたたましい電子音が響き渡る。

壁がわに設置されたベッドの中、少年は寝苦しそうに体を振り、数秒たってから腕だけ伸ばして時計を止め、やっと体を起こした。

「くあく、眠い…」

大きいあくびをかきながら、ベッドの右側に配置された、古ぼけた机の上においてある時計を確認する。

時計の針は六時を刺しており、そう焦ることも無い。

緩慢なしぐさで銀髪をかきながら、のそりと立ち上がる。

着替えをしようと箆笥に近づき――

ガツッ

「――！！！！？」

足の小指をぶつけその場で数秒もだえる。

明希は小指をかばいながら立ち上がり、箆笥に入っている制服に着替えた。

「明希、起きてますか？」

ノックの音ともに、ドアの向こうから聴きなれた声が部屋に入ってきた。

「起きてるよ双馬兄さん」

「そうですか、部屋に入りますよ」

ドアが開き、眼鏡に黒のスーツを着た青年、久遠双馬が入ってきた。

飄々とした細身だが、背丈は大きく明希より頭ひとつ分は大きい。

「ご飯はもうできてます。私はもう仕事に行くから、二度寝しちゃ駄目ですよ？」

「わかってるって、行ってらっしゃい」

「行ってきます。明希も遅刻しないように」

ドアをパタンと閉めて琴音は部屋を出て行った。

身支度を済ませリビングに行くと、双馬が作った朝食と一枚のメモが置いてあった。

『今日もちゃんと学校に行くんだよ?』

「もう、ちゃんと行ってくて」

半ばあきれながらメモを読み終わった明希は、クシヤリとメモを丸めゴミ箱に捨て、テーブルの朝食を眺めた。

今朝のメニューはだし巻き卵と大根の味噌汁とひじきの煮物。双馬の好きな、純和風の朝食だ。

「じゃ、いただきます」

その言葉を合図に明希は食事を始めた。

久遠家は明希と家主である双馬の二人家族だ。

家の主である双馬は自衛隊の仕事が忙しいのかあまり帰らず、家を空けることが多い。

そのせいか明希の家事スキルはメキメキ上昇し、双馬まではいかずとも主婦すら凌ぐレベルに達している。

「ご馳走様」

明希は食器を洗い、ソファアールにおいてあったカバンを取って家をでた。

「何か、中途半端な天気だな……」

太陽は雲で隠れ空は灰色、見るだけで気分が鬱になってくる。

「ま、こんなもんだろ」

何がこんなものなのだろうか？

自分でもよくわからない。

明希は軽く嘆息し、学校に向け歩き始めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6061c/>

黒と白

2010年12月26日14時09分発行